

こども自然共生活動推進プログラム助成

## 「出会いの森」自然学校

- ☆ 日 時： 平成22年7月18日（日） 9：00～15：00
- ☆ 場 所： 出会いの森（下関市阿内薫木）
- ☆ 参加者： 60人（こども40人・大人20人）
- ☆ 主 催： 出会いの森ファンクラブ

### 1 スケジュール

- 9：00～ 開会行事
- 9：20～12：00 保全活動（草刈・倒木除去・池の拡張作業）
- 13：00～14：40 池の生きもの観察・綱渡り等運動
- 15：40～15：00 閉会・片付け

### 2 活動内容

こどもたちが里山の中で、草刈、倒木除去、池の拡張などの作業を行います。また、池のいきものの観察や里山での遊びを体験します。

#### 【開会行事】



今回の主な参加団体（山の田&生野あそぼう会）の世話人、出会いの森スタッフによる注意事項と森（里山）を守るための活動の説明がありました。「池（トンボ池）の生きもの観察」の講師 西原氏からビオトープの説明を受けました。

「ビオトープとは、生きものが一生を過ごす場所のこと。森、草はら、田んぼもビオトープ。池は、いろいろな生きものが集まってくる場所。トンボも幼少時代は水の中で過ごす。今回の活動では、池を中心に観察会を行うこと。また、観察をしたら放してやること」を説明された。

## 【活動内容】

### ○ 倒木除去作業



団体が準備したケース入り鋸のケースにロープを通し、腰に装着しました。山に入り、倒木の除去作業を実施しました。枝を鋸で切り落としていきました。大人がこどもに鋸の使い方を指導しながら、こどもたちが中心となって枝を落とし倒木を1ヶ所に積み重ねました。また、先日の豪雨であちこちにできた水の通り道を補修しました。

### ○ とんぼ池の拡張作業



このあたりを既存の池と繋げるため掘りました。こどもから「池を造っても良いのか」との疑問が出ました。西原氏は、もともと田んぼであったと推察される場所なので、池に変えても問題はないでしょうとのことでした。



スコップで穴を掘る



一輪車で土を運ぶ



今回の作業は、ここで終了。少しくぼみが出来ました。

○ 植樹したあたりの草刈とさつまいも畑の草取り



昨年、クリ・カキ等を植樹した周りの草刈を実施しました。鎌を使ってカヤを刈りました。植樹した木の側は鎌を使わず手で草取りをしました。



さつまいも畑 草取り前



草取り後



畑には、イノシシ等の侵入を防ぐため電気柵が設置してあります。こどもたちに、普段は電気が入っているため、触らないようにと注意をしました。草取りをしながらも、ムシ探しやアリの観察に忙しいこどもたち。手の上には、カエルが乗っていました。他に、アブラムシや尺取虫、カメムシを発見していました。おとなと違い、どこでも楽しめる素質があるこどもたち。しかし、暑さにはかなわないようでした。

## ○ とんぼ池周辺の生きもの観察



西原講師から、ビオトープでの遊び方の説明と注意したい危険な生きものについて話を聞きました。「ビオトープには種々の生きものがある。それらの中には、人間にとって危険な生きものもいる。しかし、それらも含めて自然をつくっている。ヤマカガシやマムシに近寄らない、アカハライモリにも皮膚と筋肉に毒があるので、触ったら手をよく洗うこと」等の話の後、とんぼ池に網を入れ、生きもの探しをしました。

池の中にある、アカハライモリ、オタマジャクシ、ヤゴ、マツモムシ（成虫・幼虫）、カエル等を観察しました。池の周辺では、コクワガタを見つけたこどももいました。

梅雨明け初日の活動で、天気は晴れ・気温31度の蒸し暑さの中、こどもたちは草刈・池の拡張作業・倒木除去の活動を全て体験しました。草刈では、日陰がなく直射日光が照りつける中で水分をとりながら、おぼつかない手つきで鎌を使い、倒木除去では、鋸の使い方を大人から手ほどきを受けながら、倒木の枝を落としていきました。池の拡張作業は、水分を多く含んで重くなっている土をスコップで掘り一輪車で運びました。これらを午前中、しっかり体験して午後からは観察会と綱渡り、ターザンごっこで里山の遊びを体感しました。こどもたちが、大人の知恵をかりながら、里山づくりを体験した活動でした。

こどもたちに、自然に入り自然とのつきあい方を体験する機会をつくられた団体の方々、「泥だらけになり洗濯が大変だけど良い機会があった」と話された母親、それぞれが、こどもたちが自然と触れ合う機会を大切にされていることがわかりました。次も参加すると言っていた男の子は、作業と里山遊びをおもいっきり楽しんでいました。